



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2014/03/09(日)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 139

オールジャパン (天皇杯) に参加して

宮田自動車バスケットボール部
監督 佐々木 明彦

2014 年元旦から開催されたオールジャパン天皇杯に北海道代表として参加して来ました。本大会は種別を問わずプロリーグから高校生までカテゴリーの枠を越え真の日本一を決定する権威ある大会です。

宮田自動車のチームとしての参加報告と今年会場が 4 会場に分散された為、1 月 1 日と 2 日の駒沢体育館のみですが全国レベルの試合を観戦して感じたことを報告させていただきます。

宮田自動車の一回戦の相手は NBDL3 位のアイシン AW。NBDL9 チーム中 5 チームに外国人選手がいる中、日本人選手のみで 3 位に入っている好チームです。

宮田自動車は天皇杯へは 5 年連続出場で、一昨年は一回戦を突破し東海大学 (学生 2 位)、昨年は九州電力 (社会人 1 位) と対戦し、破れはしたものの全国で戦える手応えを少しずつではありますが掴み、昨年迄の課題であったフィジカルトレーニングにもチームとして本格的に取り組み、現時点でどれ位の成果が出るか、又 NBDL のチームにどれだけ通用するのかを試す良い機会と考え試合に望みましたが、結果的にはアイシン AW100-58 宮田自動車で惨敗でした。

試合内容は、1Q の出だしからアイシン AW の激しいデフェンスに苦しむアウトサイドシュートが決まらず苦しい展開。インサイドもボールを受けるまでの過程でのコンタクトが激しくシュートまで行くのがやっとな。アイシン AW22-10 宮田で終了。

2Q の出だしも相手のプレッシャーディフェンスに対応できず、開始 3 分で 20 点のビハインド。ここでデフェンスを 3-2 のマッチアップゾーンに変える。デフェンスが機能し、オフェンスでもボールが回りシュートが決まり出し 10 点まで差をつめ、前半をアイシン AW39-29 宮田で終了。

3Q、4Q もアイシンの厳しいデフェンスにターンオーバーを重ねてしまい、リードを広げられる。我々も何とか流れを変えようとデフェンスをチェンジングして対応し、速攻やアウトサイドシュートが決まるものの単発になってしまう。カテゴリーが上位のチームとの対戦ということで、ある程度厳しい戦いになる事は予測していましたが、最後までアイシンのデフェンスを崩すことが出来ず内容的にも完敗でした。

<敗因と課題>

1. フィジカル能力の不足

コンタクトプレーでの体力消耗 (イメージとしてはコンタクトした時に相手が重くて動かない)

ボールマン、ボールの無い所で常にコンタクトが起こります。デフェンスが不要な手の使い方やポジショニングをしない限り、全国でファールをコールされる事はあ

りません。

すなわち、コンタクトでバランスを崩したオフェンスは救済されません。男子、女子に限らず全国で戦う為には計画的にフィジカルトレーニングに取組み、怪我の防止を含めた選手の体作りが重要です。

2. デフェンスの徹底

宮田自動車も40分間プレッシャーをかけ続けるデフェンスをチームスタイルとして取り組んではいますがまだまだ力不足です。

全国ではボールマンに激しくアプローチして、相手のシュートを抑え、強い姿勢のまま相手の懐に入ります。その後、ドライブやファールに備え、ある程度リリースするのがセオリーですが、オフェンスが強いスタンスでプレー出来ないとその間合いのままドリブルさせられ、相手のチームデフェンスに沿って追い込まれてしまいます。道内の試合ではなかなかこのような状況になる事は少ないので、日々の練習の中でデフェンスの脚力強化のみならず、1対1の攻防の中でどれだけ攻守共に厳しい間合いで取組めるかが重要です。その為には選手への動機付けとゲームライクなシチュエーションを指導者がしっかりと準備する必要があります。

<駒沢体育館での試合を観戦して>

観戦した試合の中で特に印象深かったのは、大学生チームのレベルの高さです。個々の能力はもちろん、チームフィロソフィがしっかりと選手に浸透し、戦術・フィジカル・精神面すべてにおいてコントロールされチームとして確立されていると感じました。実際に観戦した試合では、学生2位の青山学院大学が社会人の曙ブレーキに大勝。学生6位の白鷗大学はNBL 11位の兵庫（プロ）にあわや番狂わせかと思わせる接戦を展開しました。

過去には、大学生のだらしなさを指摘する声も聞かれましたが、最近では、青山学院大学や東海大学の活躍に裏付けされる様に、各大学がそれぞれの特色を活かしながらチームを作り、リーグ戦・インカレ等での切磋琢磨によって大学界のレベルは確実に上がっていると感じました。

同じ会場で阿部聖氏が審判を努めた試合を2試合観戦する機会がありました。1試合目は学生6位の筑波大対社会人1位の九州電力の試合。最後までリードが常に入れ替わる接戦と、2試合目は外人選手がいるNBDL 1位の東京対社会人1位の日本無線の試合です。どちらの試合もレベルの高い好試合でしたが、トラブルもなく冷静に対応されていました。

道内では審判員の方々への厳しい意見を耳にする事もありますが、全国大会等に派遣され活躍されている審判委員のレベルは確実にアップしていると感じました。

逆に、実業団の 카테고리に限って言えば宮田自動車も含め、近年全国大会では上位に食い込めず苦戦が続いているのが現状です。道内でも全国レベルの試合が増え、選手、審判相互にレベルアップしていけるような環境作りが必要です。

最後になりますが、天皇杯に5年連続出場してチームとしては、カテゴリーの枠を越え様々なチームと試合をする事ができ、多くの経験を積み勉強することが出来ました。

しかし、宮田自動車も天皇杯を含め全国レベルの試合を経験する機会は多くて年3回程度しか無く、全国大会の経験を北海道のレベルアップに繋げられているかという点ではまだまだ私自身指導者として力不足であります。

今後も、全国大会で経験した事を少しでも北海道のレベルアップの為に発信出来るように指導者として努力して行きたいと思っております。